

氏名	森 山 重 治		
学位の種類	医 学 博 士		
学位授与番号	博乙第 1966 号		
学位授与の日付	昭和 63 年 12 月 31 日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）		
学位論文題目	同種気管移植による広範囲気管切除後の気道再建に関する実験的研究		
論文審査委員	教授 折田薫三	教授 増田 游	教授 木村郁郎

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

雑種成犬を用いて同種気管移植で広範囲気管切除後の気道再建実験を行った。胸部気管 10 軟骨輪を切除後、同種気管 5 軟骨輪を移植し、血行再建の目的で移植気管に有茎大網弁を被覆した。免疫抑制剤は FR 900506 0.1 mg/kg を毎日筋注にて投与した。28 頭中 20 頭に移植気管の生着を確認した。11 頭が 30 日以上、そのうち 3 頭が 120 日以上生存した。残る 8 頭中 6 頭は術後日数が 5 日以内と短いため生着の有無は判定できなかった。拒絶反応は 1 頭にみられたのみであった。経時的な気管支鏡による観察では、術後 1 ~ 2 週目までは移植気管の粘膜は暗赤色浮腫状であるが、約 3 週間後には正常な所見を呈した。移植気管は組織学的にも正常な気管の構造を保っており、上皮は杯細胞を混じる繊毛多列円柱上皮が再生した。吻合物の狭窄や肉芽形成は 1 例も認めなかった。動脈内色素注入による検討で大網と移植気管の間に血行が成立しているのが証明された。走査電顕による検討でも長い繊毛を有する上皮が再生しているのが証明された。本法は気管外傷、癌の気管浸潤、気管腫瘍など広範囲気管切除を余儀なくされた場合の気道再建に臨床応用可能な方法と考えられる。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

雑種成犬を用いて、血行再建を企図して有茎大網弁被覆下に同種気管を同所性に移植、免疫抑制剤 FR 900506 を連日投与している。28 頭中 20 頭、に気管が生着、その中 11 頭で 30 日以上生存している。内視鏡的にも粘膜が 3 週後に正常化し、光顕、走査電顕での所見も、これを裏付けている。動脈内色素注入にて、大網と移植気管の間に血行の再生をみており、本術式は広く臨床に応用されることを明らかとした、臨床意義は極めて高く、本研究者は医学博士の学位を得る資格ありと認める。